平成29年度 決算

平成29年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会で認定されました。

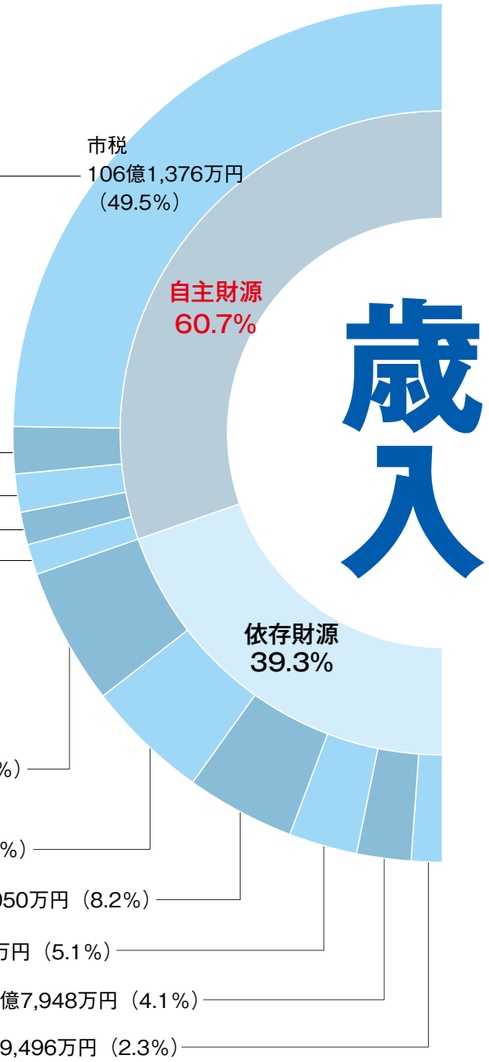
平成29年度は、第2次総合計画前期基本計画の1年目として、5つの戦略プロジェクト(『健都さぷり』、『安全力ジャンプアップ』、『JR亀山駅周辺拠点力向上』、『ジモトノココロ』、『そして、親となるまち』)を中心に、さまざまな施策に力を注ぎました。

「平成29年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や、国・県から市に入ったお金がいくらで、どのように使われたか、また、市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

歳入 214億3,246万円

市税の内訳

種　類	決算額
市民税	34億4,209万円
固定資産税	59億1,106万円
軽自動車税	1億4,417万円
市たばこ税	3億5,266万円
特別土地保有税	118万円
入湯税	242万円
都市計画税	7億6,018万円
合　計	106億1,376万円

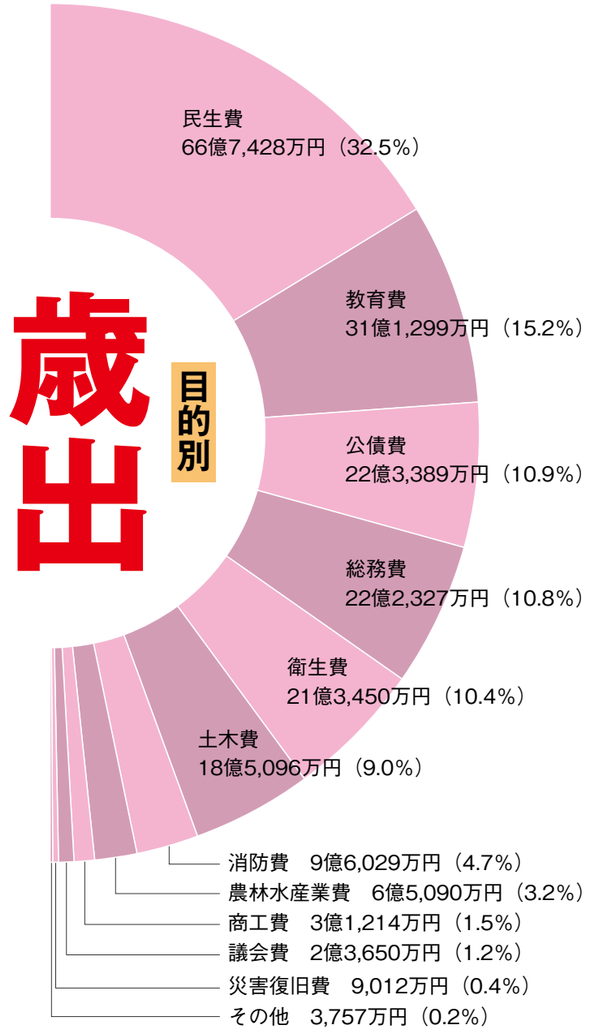


歳入は、前年度より約９億８千万円増加した決算となりました。地方財政の自主性を確保する自主財源は、市税収入が約３億円の増収となったことが大きな要因となり、前年度より約２億円増加し、構成比は歳入全体の60.7%となりました。依存財源についても、地方交付税や各種交付金が増収となったほか、市債が増加したことにより約７億８千万円増加し、構成比は歳入全体の39.3%となりました。

一般会計

一般会計の歳入は214億3,246万円、歳出は205億1,741万円、歳入歳出差引額は9億1,505万円となり、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は6億7,710万円となりました。

歳出 205億1,741万円



歳出は、前年度より約7億6千万円増加した決算となりました。目的別でみると、衛生費が、し尿処理施設長寿命化事業の減などにより前年度と比べ約3億7千万円の減、土木費が、野村布気線整備事業の減などにより前年度と比べ約1億5千万円の減、教育費が、川崎小学校改築事業の増などにより前年度と比べ約9億5千万円の増、民生費が、障がい者自立支援事業費の増などにより前年度と比べ約2億2千万円の増となったことが主な要因です。

●市民１人当たりの歳出（一般会計）

市民１人当たりに換算すると**413,666円**

民生費　134,565円
各種福祉事業を行うためのお金

衛生費　43,035円
市民の健康管理やごみ処理に使うお金

公債費　45,039円
借入金の返済や利子支払いのためのお金

教育費　62,763円
学校教育や社会教育などに使うお金

総務費　44,825円
地域振興や一般事務などに使うお金

土木費　37,319円
道路やまちづくりなどに使うお金

消防費　19,361円
消防施設や消防団運営に使うお金

農林水産業費　13,123円
農業や林業の振興に使うお金

商工費　6,293円
観光や商工業の振興に使うお金

議会費　4,768円
市議会の運営に使うお金

災害復旧費　1,817円
台風や大雨などにより被害を受けた施設の復旧に使うお金

その他　758円
勤労者の支援などに使うお金

※市民1人当たりの歳出額は、平成30年4月1日現在の人口（49,599人）で計算しています。